

アートと夢見るホテル

一点ものの芸術作品を客室に飾った「アートと泊まれる」ホテルが、各地に登場している。ホテル業者には、ほかにはないサービスで独自性を出す狙いがあるが、美術家にとっても、自作を多くの人に知ってもらう機会となる。美術系の大学と協働し、学生らの作品を展示する取り組みも始まった。(谷口大河)

全室に名古屋芸術大作品



名古屋芸術大ゆかりの作家のアートパネルが飾られた客室。名古屋市中村区のコンフォートホテル名古屋新幹線口で

夕闇を描いた淡い色彩の日本画、かわいらしいウサギの絵、染色で表現された青い海……。十一月に開業したコンフォートホテル名古屋新幹線口(名古屋市中村区)の客室で、絵画のパネルがベッドの枕元の壁を彩る。名古屋芸術大(愛知県北名古屋市)の学生や卒業生十一組の作品で、百五十六ある客室すべてに違う絵が飾られている。出張で利用した東京都大田区の会社員上原尚美さんは「この部屋だけの一点ものには特別感がある。若手作家と聞いて応援したくなった」と話した。コンフォートホテルは、全国の系列ホテルで、もてなしの一環としてアートパネルを客室に飾っている。通常は家具と調和したパネルをデザイナー事務所が発注することが多いが、今回は、大学に協働して絵が飾られている。「部屋の居心地の向上と、地元の若

愛知に開業「地元の若手応援」



作品を紹介し「おしよを」Rすまね機部博子さん(愛知県北名古屋市)の名古屋芸術大で

自身も作品を納めた機部さんは「絵を買ってもらう収益は、くわすかでも、海外や県外から来た方に自然とPRできる」と利点を語り、「ホテルを選ぶ基準の一つに「アートと一緒に泊まれる」があってもいい。作品を自主的にしたらリビーターが現れてくれたら大

手芸作家の応援を兼ねられると考えた」と話す。大学側もゆかりの作家を後押しする好機として、快諾した。作家には、材料費程度の報酬が一律で支払われる。大学側は、学芸担当の職員で日本画家の機部博子さん(30)が中心となって、出品者の選定などを進めた。あいちトリエンナーレ2019に作品を出した画家藤原美さん(28)らが名を連ねる。

成功」と期待を寄せる。作品はホテルの所有となるが、宿泊客が関心を持った場合に、作家について詳しく知ることもできる。コンフォートホテルは、愛知県内に新設する二店舗のアートパネル制作も、名古屋芸術大に依頼する予定。ホテルの担当者は「宿泊客からも、いい反応があった。作家の作品がホテルを活気づけ、

双方に利益がある」と話す。もっと「アートと泊まれる」に特化したホテルも、次々と開業している。今年七月にできた「node hotel(ノードホテル)」(京都市)は、収束家が住む場所をイメージし、美術作品を客室やロビーなどに飾る。宿泊客は、現代美術家の大竹伸朗さん、写真家・荒木経惟さんらの作品が見られる。今月開業したホテルロイヤルクラシック大阪(大阪市)は「ミュージアムホテル」をうたい、一九五〇〜七〇年代に活躍した前衛美

術集団、具体美術協会の作品などを展示している。商品ジャーナリストの北村森さんは「アートとの連携はホテルの生き残りの戦略の一つではないか」と指摘する。今は、東京五輪に向けて開業ラッシュが続く。各ホテルが将来の供給過多と競争の激化に備え、独自性を模索しているとした上で、「非日常の空間であるホテルと、アートの親和性は悪くない。連携で新しいテーマ性を見いだすことができたホテルは、成功するかもしれない」と話している。